

## こどもの居場所に関する関係機関協議会（第2回フリースクール部会）について

**1 開催日時・場所**

令和7年7月9日（水）9時50分～11時40分  
鴨池公民館

**2 会次第**

- (1) 開会
- (2) グラウンドルール確認
- (3) 議題等
  - ① 自己紹介，グラウンドルールの説明
  - ② 子どもとの意見交換
  - ③ 保護者との意見交換
  - ④ 施設代表者との意見交換
    - ・ NPO法人しののめフリースクール  
理事長 中村 紫乃 氏
- (4) 今後の進め方，委員の意見提出について
- (5) 閉会

**3 出席委員**

杉原 薫委員，藤原 奈美委員，鶴田 啓洋委員，原之園 哲哉委員（池田 浩一代理），  
田淵 千春委員

**4 議事概要**

- (1) 子ども・保護者との意見交換
  - ① 委員から，子どもに対して，以下のような質問があり，意見交換を行った。
    - ・ しののめフリースクールを知ったきっかけ，調べた方法  
→ 両親が調べて，私に勧めてきた。ネットで調べて，「ここが良さそうだよ」みたいな感じ。
    - ・ 最初に訪問したときの印象  
→ クリスマス会のイベントがあつて，雰囲気が明るかった。
    - ・ どれぐらいの頻度で通っているか  
→ 中3から週3日ぐらい行くようになった。今は高校があるので毎日通っている。
    - ・ 交通手段，通学時間について  
→ バスとJRを乗り継いで通っている。1時間半くらいかかる。
    - ・ しののめフリースクールでは，主に何をして過ごしているか  
→ 先生とか，他に來ている人とかと喋っている。  
外に出るのがすごく好きなので，外に出て遊んだりするのはすごく楽しい。ほぼ毎日公園に行っている。月1回くらい，川遊びしたり，ピザを作ったり，自然の中にあるカフェに行ったり，そうめん流ししたりしている。
    - ・ 通う日数が増えたきっかけ  
→ 話すのが楽しくなって，行くと楽しいなって思えたのが一番なのと，家にいると暇なので，みんなと話をした方が楽しい。
    - ・ 距離と通う日数の負担について

- 楽しいので、距離はあまり関係ない。
  - ・ しなのめフリースクールで過ごす時間の中で一番楽しい時間
    - 誰かと話をしているとき
  - ・ しなのめフリースクールで過ごす際のスケジュール
    - 基本の時間はあるが、誰も守っている人はいない。
  - ・ しなのめフリースクールに通って変わったこと、変わっていないこと
    - 変わったことは、人と積極的に話をしても、怖くなくなった。話をしても大丈夫だになっていう気持ち。変わらないことは、うるさいこと。
  - ・ 異年齢との交流について
    - 小6で入ったときは、お兄さん、お姉さんと話をしていた。今は年下が多い。この伝え方で大丈夫かなっていうのと、ストレートに伝えても大丈夫だになっていうのは、分けて使えるように少なくなった。
  - ・ 希望する進路について
    - ダンスがとても好きなので、そっちの道にいかたらいいなって考えている。
- ② 委員から、3名の保護者（保護者A、保護者B、保護者C）に対して、以下のような質問があり、意見交換を行った。
- ・ しなのめフリースクールを知ったきっかけ
    - （保護者A）
 

ホームページの情報公開がすごくしっかりしていたので知った。ここにたどり着くまでが長かった。不登校ホットラインに電話をしたり、教育総合センターへ行ったり、スクールカウンセラーに会ったり、適応指導教室にも行ったりした。当時小学2年生だったが、適応指導教室は小学校低学年を前提としていなかった。しなのめさんに相談したら、受け入れてくれた。
    - （保護者B）
 

小5くらいに不登校になり、何とか保健室へ行って、卒業式は校長室で行った。中学校の入学式は何とか行けたが、その日の夜に「やっぱり無理そうだ。」となった。どうしようか考えていたときに、フリースクールという存在があることは知っていたが、どこにあるとか分からないので、「鹿児島 フリースクール」と検索したら、しなのめフリースクールがヒットした。その時は谷山にあったから、近かったので、体験入学のメールをさせていただいて、子どもも連れて行った。
    - （保護者C）
 

何箇所か見学に行った。制服を着ると吐き気がするとか、行こうとすると、放課後プリントを貰いに行くとなったらお腹が痛くなる状態だった。フレンドシップは、最初の面接で「ここは学校に繋ぐ所だよ。」と言われたので、それで「もう厳しいかな」と言った。しなのめさんに行ったら、学校に行く、行かないの話は出なくて、「安心して通えるといいね。」「自分のしたいことを自分のペースで。」という話だったので、ものすごく安心した。あと、初めて面接に行ったときに、小学生の子どもさんが、「いらっしゃい」と声をかけてくれて安心した。「ここだったら子どもが元気を取り戻せるかな。」と考えて選んだ。中1の12月から通い始めた。
  - ・ しなのめフリースクールに通って変わったこと
    - （保護者A）
 

しなのめに行って、年齢を経て成長したっていうところもあるのかもしれないが、他者に関わるので、楽しかったときとか話してくれるようになった。ADHDの気があって気性がもともと激しい。なので、逆に成長なのかもしれないが、最近は元気がなくて心配している。今、しなのめに行く回数も減っている。

(保護者C)

しののめに通うようになって、自分と同世代の子で同じ境遇の子がいるとか、すごく安心してみたいで、同じ年の男の子が元気に通っている姿を見て、「これでいいんだ」「自分のペースでやっ払いこう」みたいになった。今は、制服を着るのもどうもなくて、お腹が痛くなることもなく、もともとは「途中で帰れば」とか、「まずは学校でやってみたら」とか言ったら、「そんな他の子はやっていない」という感じだったが、今は自分のペースで学校に行き、部活までやって帰るっていう、しののめで自分のペース作りができるようになった。「人と違って大丈夫」みたいな形になった。

(保護者B)

学校以外のコミュニティーが増えたのが、親としてもうれしい。先生とこういう話をしたということを、家でよく話をするし、その生活をほとんど3年間休まないで繰り返してきて、高校になってからは、「やっぱり勉強しないとな」という自覚が出てきた。通うことを週3回に増やして、あとの週2回はバイトしている。バイトで色々な方と接するので、そのストレスで逆に「学校の方が楽しい。」と言っている。

生活のリズムが全くなかった。いつ起きていつ寝てるのかっていう感じだった。それが今は毎日早起きしないとイケないので、生活のリズムが作れている。ルーティンのように。休むことはしないので、本人の中でそれが大きな変化かなと思う。

- ・ しなのめフリースクールへ通い始めたときの子どもの様子

→ (保護者A)

家でもキレッキレで、暴れたりして喧嘩を2年生くらいまでしていた。

(保護者C)

行き始めたときは家では元気にしていたが、みんなができることを自分ができないということで、自分は病気なんじゃないかとか、どうなるんだろうかとか不安になったみたいで、泣いたことがあった。

- ・ どれぐらいの頻度で通っているか

→ (保護者A)

たくさん通えるときは週3回くらいだったが、今は週1回も行けていない。

(保護者B)

中学校3年間は週1回で通っていて、それ以外の日の週1回は、担任の先生からプリントを渡されたり、先生とちょっとした雑談をしたりして帰るという3年間だった。今は通うことを週3回に増やして、あとの週2回はバイトしている。

(保護者C)

もともとは、週5回しののめだったが、今は週2回しののめで週3回は学校に通っている。

- ・ 学校に通えなくなったときに保護者が直面した困難について

→ (保護者A)

1点目は、私はひとり親で仕事の業務量も多いので、子どもを一人で置いてはいけない。今は引っ越して、マンションの中で祖母と二世帯しているので、そこらへんは解消された。2点目は、4年生頃発達障害が分かって、コミュニケーション量が足りていないことが不安になった。3点目は、生活リズムの問題があって、朝日を浴びるとか、運動するとかがあまりできなくて、その結果ストレスがたまるところがある。4点目は、この結果親子関係が悪くなって、衝突することが多い。

フリースクールでは、先生がカウンセリングをしてくださったり、保護者の会とかがあって、他の保護者とお話をする場がある。不登校経験者の親がいて、「大丈夫よ」と励まされたりする。不登校とか、そういう時期があるっていうのは、頭では分かっているけど、小2から学校に行っていないので、学習とかも追いついていなくて、「どうしよう」という気持ち強い。

(保護者C)

しのめさんだと経済状況とか教育意識とか、近い人に出会えるかなと思ったが、地域の魅

力である色々な人がいて、色々な子どもたちと出会える機会を子どもが得られないというのは不安で、しのめさんに行く決めても迷いはあった。その中で、カウンセリングで気持ちの整理ができて、今は子どもが安心して行ける場所がいいかとなった。この時期が苦しかった。親の気持ちをどうもっていくかというのが、とても大変だと思う。

・ 学校に通えなくなったときに学校側にして欲しかったこと

→ (保護者B)

保健室登校は養護教諭が接してくれる。発達障害があると支援学級がある。そういうような形で、不登校に関わる支援員がついてくれるような施設が同じ学校内にあるといい。「絶対に学校に行かせたい」、「普通がいいに決まっている」と受け入れができない親は結構いる。

「こういうところがあるよ。学校だけではないよ。」というのがあるといいのかなと思う。

(保護者A)

児童クラブみたいなところは、低学年だと居心地がよい。今通っている学校でも、不登校の子のために開所時間を早くしてもらえないかっていう議論をしてもらっているらしい。児童クラブにもよるが、温かくて、子どもが行きたいなって思う場所。児童クラブは学校の中にある。

鹿児島市教育委員会が子どもの接し方を親が変えなければならないという内容の研修をしてくださって、すごく役に立った。年に1回くらいやっている。

・ 交通手段について

→ (保護者A)

引っ越して一緒に祖母が住んでいるのでいいが、そうじゃない人はやっぱり大変だと思う。場所の問題は結構難しい。

・ 通う上での課題について

→ (保護者C)

毎日バスや電車を乗り継いで通うのは、体力的にすごく大変だと思いますが、1番は経済的に大変。友達に不登校の子がいるが、「一緒に行こう」とはなかなか気軽に誘えない。

電車の定期を買って、バスのICカードをチャージしている。教育委員会に行って、学割はフリースクールでも使えるか尋ねたが、そこは難しいという回答だった。

(保護者B)

バスや市電に乗ることは、子どもの社会勉強だと思っている。体験は大事である。1時間とかなると難しいが通わせている。

(保護者A)

低学年で、午前10時とかに電車に乗っていると、乗客に話しかけられて、それが嫌で通いたくなくなったことがあった。

・ 保護者に対して、どのような研修や、情報提供があれば良いか。

→ (保護者A)

以前はなかったが、今は学校からの便りでフリースクール一覧をもらっている。子どもへの接し方の研修会のようなものが定期的にあるといい。親としての学びがあればいい。

(保護者C)

今のこの子にとって、「本当にどこがいいか選択していいんだよ。」というのが最初にあると、フレンドシップに行って、また失敗するという経験を積まなくてよくなる。適応指導教室もあるし、フリースクールもあるし、「今の子どもが選んで進んでいこうね。」というような研修会があると良いと思う。

(保護者B)

学校から「学校に来てください。」ではなく「こういう選択肢がありますよ。」「学校だけではないですよ。」という提示が欲しい。前のめりな親は一生懸命に情報を得るが、自覚のない親は多いので、どうしたらそのような親にも情報が届くのかというのはある。

## (2) 施設代表者との意見交換

中村紫乃氏より、施設の活動状況の説明が行われたあと、委員との意見交換を行った。委員からは、中村紫乃氏に対して、以下のような質問があり、意見交換を行った。

- ・ 出席認定について
  - 今まで 70 校近く関わりがあるが、全ての学校、在籍校から出席扱いを頂いている。新しい小中学校とやりとりをするときは、フリースクールでの過ごし方等を校長先生に話をする。
- ・ 出席認定のための報告書について
  - こちらから出す通所証明があるが、「独自のフォーマットを使ってくださいね。」という学校もあれば、「こういう様式があるので、これ通りにしてください。」「写真撮ってください。」というふうに言われる学校もある。  
一ヶ月ごとの報告書に、「イベントでは友人とニコニコ笑いながら話をしていた」と書いたら、「それのどこが」と言われた。ニコニコ笑いながら活動しているところを評価して欲しかった。報告書を毎月出しているが、通信簿の出席日数が合わないことがあり、後日正式なものがきた。生徒が通信簿を持ってきて「出席日数おかしいんですね。」と言ってくれたから分かった話なので、報告書が反映されているか確認しようがなく、どうしたらいいのかというのはある。
- ・ 学校や行政とのやりとりで難しさを感じたこと
  - 最初は、出席扱いを認めていただくまでの第一歩が長かった。何度も通ったり、子どもたちの様子を見に来てもらったりした。子どもたちは、学校に行けていないが、「出席になっているのかな。」とこだわる子が多い。安心して通いたいという思いもあって、「ここに通っていたら学校と同じ出席になるんだよ。」となるとすごく心強い。そのうち、教育委員会からチェックリストがきて、クリアしていれば出席扱いみたいになった。  
校長先生が替わったところは、「過去にはあったんですけど。」という形で出席を認めて貰っている。  
学校によっては、見に来てからでないと出席は出せないとか、面談をしないと駄目だとか、色々ある。  
「毎日公園に行っても出席なんだね」と質問をされる学校があるが、子どもたちは、すごい体験をしてきて、心が追いついていない状態なので、学習だけを重視しても、心のベースが育たないといけない。あえて、1日の学習を強制しないのもすごく重要であり、そういう質問をされる学校は、そういう大切さが分かっていない。
- ・ スタッフの人数について
  - スタッフは8名（公認心理師・臨床心理士6名、学研の先生1名、元スクールソーシャルワーカー1名）。スタッフは多いが、他の仕事とかを持ちながら、掛け持ちで行っているのも、しっかり一人が見るとするのは難しい。経済的な理由もある。
- ・ 居場所づくりの課題について
  - 場所を転々としたのは、経済的な理由がある。天文館は安く借りられたが人数制限あった。そこで探していたところが郡元だった。理由は経済的な理由と子どもの人数。  
また、今は小中学生と高校生が通っているが、高校生がいると小中学生は行きづらくなっている。高校生は、学校があって、ここを選んで来ている。小中学生は学校に行けなくてここに来ている。小中学生は丁寧にケアをする必要があり、居場所の雰囲気づくりが難しい。

## 5 委員からの質問等

(1) 部会委員から、後日以下のような質問があり、中村紫乃氏より御回答を頂いた。

(質問1) ※杉原部会長

月1回の保護者会では具体的などのような取り組みをされていますか。工夫している点などがあればそれも含めて教えてください。



(回答)

ピアサポートの側面を重視しているので、保護者同士支えあうために話しやすい場を心がけています。ただ、こちらからの情報を欲しいと思われる方も多い（そのために参加される方もいらっしゃるの、参加率を上げるという意味も含めて）ので、月ごとのテーマ「出席扱いについて」や「進路について」等テーマを決めて、保護者の参加を募っています。

(質問2) ※杉原部会長

スタッフさんはシフト制だと思いますが、常時、何名のスタッフさんがいらっしゃるかでシフトを組んでいますか？（子ども対スタッフの比率はどのくらい？）

(回答)

常時2名います。（経済的理由で増やせません）多い時で3名です。利用する子供は、時間や日によってばらばらですが、一日約10名前後となります。

(質問3) ※杉原部会長

スタッフさん（講師）を新たに雇用することができるとしたら、どのような人材を雇用したいと思いますか。その際、どのようなプロセスを経て採用へと至ることになりますか。

(回答)

子供へのかかわりにおいて、補助自我的な役割で子供と子供をつなぐことができる、あるいは子供の権利を尊重できる人材を雇用したいです。プロセスは、見学してもらい面接という流れです。

(質問4) ※杉原部会長

支出においてもっとも大きなウエイトを占めているのは何でしょうか。（人件費？家賃？）

(回答)

人件費です。そこもほとんど有償ボランティアというくらいのお支払いとなっているのが現状です。

(質問5) ※杉原部会長

小・中学校段階の児童・生徒さんの学力面の支援はどのようなかたちでされていますか。（児童・生徒さんにとって様々な人とコミュニケーションを取ったり、いろいろな体験をしたり、休息をとったりすることが学力の定着とともに大事な点であるという点にはもちろん賛同します。そのうえで、学力面の支援という観点でお聞きしたいと思います。）

(回答)

学研教室を同建物で行っています。学力ができる態勢が整ったお子さんや保護者へ学研の教材利用の声掛け、あるいは、学校のプリントやテキスト、インターネットのプリントを利用し、子供たちの関心のある分野から学習をサポートしています。

(質問6) ※藤原委員

保護者等からの問い合わせ数、見学者数、実際の利用に繋がる数（年間）について

(回答)

昨年度を参考にお答えします。また、保護者のお悩み相談につきましては、施設利用以外にもカウンセリング、アウトリーチ、心理検査等のご希望、あるいは他の施設の方や学校関係者の見学等、お問い合わせ内容は多岐にわたります。そのうえでお答えします。

お問い合わせは保護者、学校、児相含めた行政、施設関係者、メディア等メールやお電話でのお問い合わせ含め年120件程です。見学者は90件ほど、実際の利用者は体験生含め30件程です。

(質問7) ※藤原委員

利用は見送ると判断された方々が躊躇している、あるいはネックとなっている点、よく言われることがあれば教えてください。（物理的な距離、経済面、本人の意思、その他）

(回答)

一度入会された方で兄弟がいらっしゃる、そこで経済的負担を感じられて辞めた方もいらっしゃいました。（兄弟割引はあります2人目は8割です。ちなみにひとり親ご家庭は5割です）

また、ほかの例としましては当団体の高校入学も考えられて、中3のうちから本人も来られ通う意思を確認しましたが、利用料金を提示させていただいたのち、お断りの連絡が入ったので、経済的理由でした。

理由を明確に言われたいご家庭が多くありますが、上記のように、子供が通う意思をもっているにもかかわらず、お断りされる例はだいたい経済的理由であったと思います。

(質問8) ※藤原委員

フリースクール運営に特化しているが、その他で収益事業を考えている、あるいは考えたことがあるか(助成金申請含む)。

(回答)

助成金申請を今まで多く行っています。助成金は年に5から6か所申請をしていますがほとんど不採択のため、実際の運営には反映されず、会員と賛助会員の寄付で成り立っています。

(質問9) ※藤原委員

フリースクール以外で得ている収益にはどのようなものがあるか。

(回答)

上記内容に加えて、県の子ども福祉課の「子ども・若者への相談支援活動」スタートアップ事業です。

(質問10) ※藤原委員

他の収益事業に取り組むことができていない場合は、その理由にはどのようなものがあるか。

(回答)

当団体への、問い合わせ、カウンセリング、アウトリーチ、居場所運営等回していくので時間的に他の収益事業まで手がまわりません。また、自分自身の家計のための他の業務(スクールカウンセリング、EAP事業等多数かかわっている)もあるため、物理的に難しいです。

(質問11) ※藤原委員

HP運営やSNS等、広報活動で工夫している点があれば教えてください。

(回答)

子供たち、保護者への写真掲載許可をとり、個人情報保護には気を使っています。

広報活動は、必要な情報をご家庭に届ける大きな手段であるので、積極的に利用しています。また、ライン登録による情報提供も有効ですが、多数の方への情報提供を行うためにバージョンを上げたいのですが、課金されるため、そこも経済的理由でできない状況です。

(2) 部会委員から、後日以下のような意見があった。

(池田様)

- ・ フリースクール関係者の話を直接聞けたい機会だった。
- ・ 生徒は、個性からだろうが、明るく現状肯定的に話してくれたのが印象的。伝わることの怖さ、や表現が、集団の大小に関わらず、不登校等の要因になることを再認識した。
- ・ 保護者の話が、しのめにとどり着くまでの過程を踏まえた、深い内容が多かった。進行形で、課題を抱えている当事者としての姿が垣間見え、今後の支援も継続して必要であると感じた。
- ・ 学校との関係性も、各人が努めてもらっていたことがわかり、連携を持ち続けることの重要性を再認識するとともに、情報提供のあり方として、より広く選択肢を示すことの必要性も感じた。
- ・ 高校を併置する特殊な形態のフリースクールでもあるので、より信頼される運営がなされていると感じた。学校の出席扱いの話等からも、ここまでの苦労が推察されたが、現在はテストもフリースクールで受けられるという学校との関係性が非常に進んだものであると感じた。
- ・ 本市でも一昨年から、フリースクールでの活動出席扱いする例を作ったが、基本は在籍校としてしっかりした連携ができていれば良いと考える。公平性の部分で、行政の確認など丁寧な対応が求められる部分もあろうが、居場所づくりの観点と生徒・保護者の安心感の観点から、今後さらに検討を進めていきたいと思う。

(田淵委員)

- ・ 生徒が生き生きとしていて、過去のつらい体験も少し客観的にとらえて話すことができていて、周りの関わる人たちのサポートがとても良いのだと感じた。
  - ・ 人と話すことが怖くなくなったと言えるのはとても大きいと感じた。スタッフの関わりはとてもフレンドリーな様子。親しみやすいことがとても良かったのだろうと感じた。
  - ・ 他年齢のこと話すときは、自分の経験からきちんと相手のことを考えて話すとのこと。自分が傷ついたからこそその気遣いができるし、他年齢の関わりはお互いを成長させる物だと感じた。
  - ・ 家族にしののめの話を聞いてから体験まで時間がかかった。
  - ・ 保健室登校やフレンドシップは校内。そこへ行くことがきつい子もいる。
  - ・ リストをもらうことができ、支援体制がわかった。
  - ・ フリースクール情報は少ない。「鹿児島市 フリースクール」で検索した。
  - ・ 学校に行くことが全てではないよという環境が必要（声かけも含め）
  - ・ フレンドシップ（フレンドルーム）は学校とつなぐ場所だよと最初説明をされ、ますます行けなくなる。吐き気がした。と言うのを聞いて、よかれと思っていることが子ども達を苦しめる一言になると改めて感じる。
  - ・ しののめスクールは、選択肢はいくつあってもいいのよという安心感がある。
  - ・ 保護者会や保護者学習会があるのは心強い。
  - ・ 不登校の子の居場所は、学校内で保健室ではなくきちんとした場所を設置してもらえたらありがたい（各学校有る程度の不登校生徒がいるので、その子達の居場所）
  - ・ 児童クラブが開設時間を早くしてもらえると不登校の子が来られるようになるのではないかな。
- ※ 保護者の不安
- ・ 担任の先生に申し訳ない気持ちになる。
  - ・ このままフリースクールで地域の子と交流がなくなるのは不安
  - ・ 学力や将来のことが不安
  - ・ 不登校傾向の子どもがたくさんいるのは知っているけれど、実際わが子だと不安。
  - ・ 経済的な問題（学費、通学費）
- ※ フリースクール
- ・ 場所的な問題、体力経済面
  - ・ 「みんな来ても良いよ」という場所は作るのが難しい。と言う言葉に思いがこもっていた。高校生が楽しい場所は小学生が来にくいし・・・と言うような。